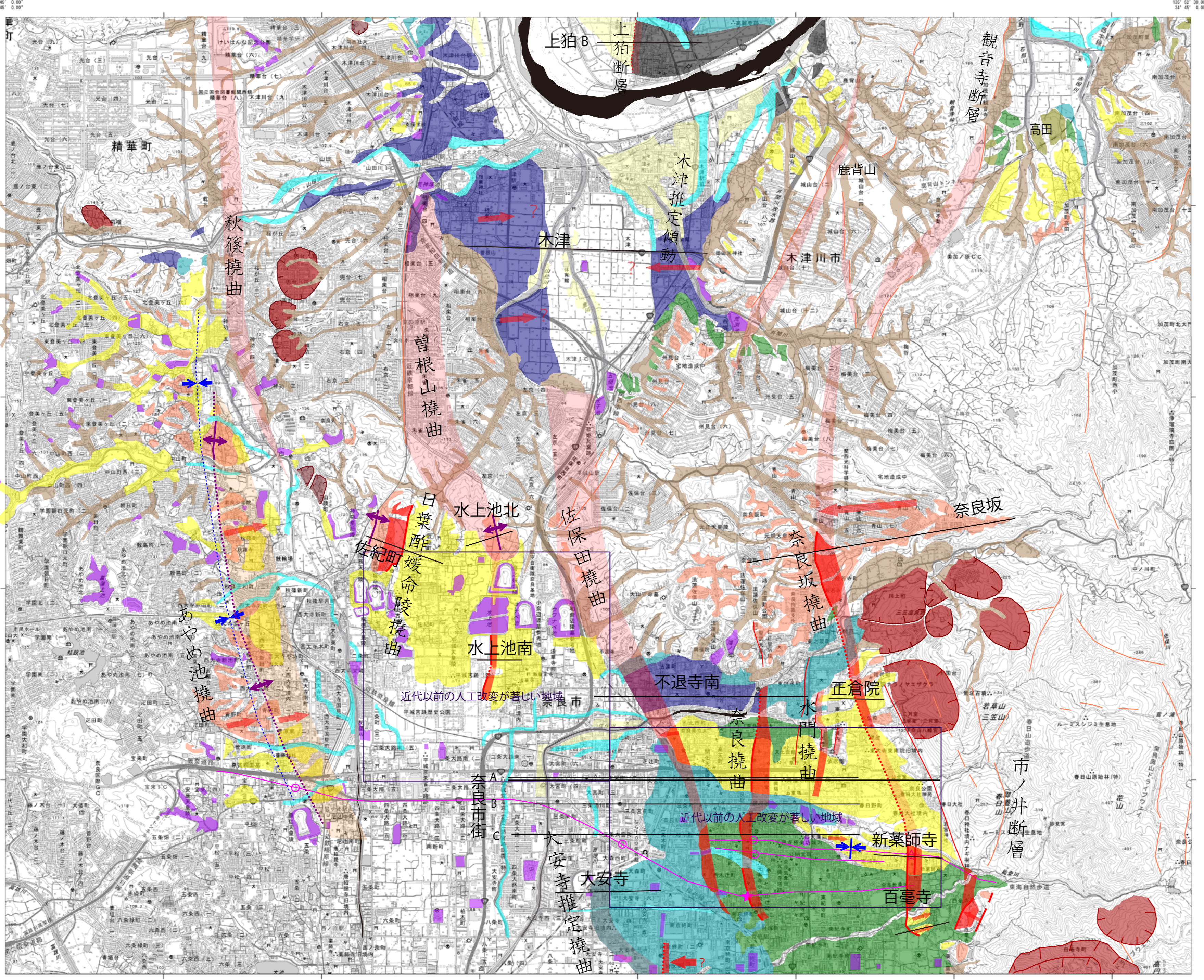
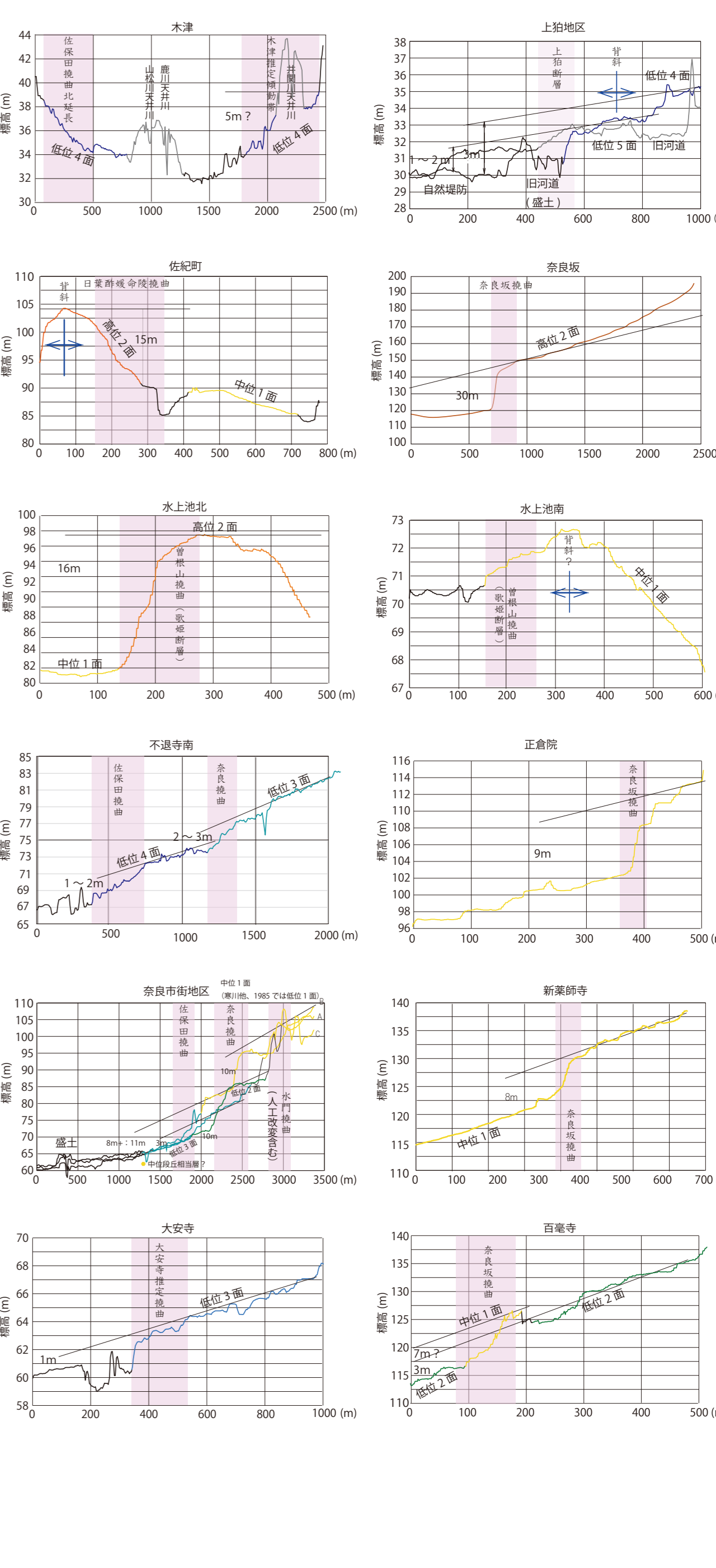


# 奈良



- ### 活構造凡例
- 活断層 (地表に破断変形生じる可能性大)
  - 伏在活断層 (変位基準なし・地表に破断変形生じる可能性大)
  - 推定活断層 (第四紀後期の活動未確定・地表に破断変形生じる可能性あり)
  - 活背斜 (地表に背斜(引張)変形生じる可能性大)
  - 活向斜 (地表に向斜(圧縮)変形生じる可能性大)
  - 活撓曲 (幅数10m~数100mの傾動が生じる可能性大)
  - 伏在活撓曲 (変位基準なし・幅数10m~数100mの傾動が生じる可能性大)
  - 推定活撓曲 (第四紀後期の活動未確定・幅数10~数100mの傾動が生じる可能性あり)
  - 傾動帯 (幅数100m以上の傾動変形生じる可能性大)
  - 傾動方向 (矢の方向に傾き下がる)
  - リニアメント・古期断層 (地表に断層変位をもたらす可能性低い)
- ### 調査項目凡例
- 地形断面位置
  - 反射法地震探査測線
  - 断層
  - 傾斜変換点
  - トレンチ調査地点
  - 調査ボーリング地点重要露頭
- ### 地形凡例
- 1930~40年代の水部 (ため池など:その後埋め立てられたもの・現水部を含む)
  - 旧河道 (埋め立てられた川の跡)
  - 自然堤防および破壊地形 (堆積) (洪水時に土砂が堆積した微高地)
  - 天井川 (歴史時代に形成された周囲より河床が高い川)
  - 緩斜面 (土石流堆積物などが堆積して作られた斜面)
  - 低位5面 (完新世後期=数千年前に降にできた段丘)
  - 低位4面 (完新世=約1万年前に降にできた段丘)
  - 低位3面 (更新世末期=約1.5万年前ごろにできた段丘)
  - 低位2面 (後期更新世後期=約2万年前ごろにできた段丘)
  - 低位1面 (後期更新世中期=約4万年前ごろにできた段丘)
  - 中位2面 (後期更新世前期=約8万年前ごろにできた段丘)
  - 中位1面 (後期更新世初頭=約10~12万年前にできた段丘)
  - 高位2面 (中期更新世後期=約20万年前ごろにできた段丘)
  - 高位1面 (中期更新世=数10万年前にできた段丘)
  - 地すべり地形 (過去の地すべりによって作られた斜面)



1. 投影はユニバーサル横メルカトル図法、座標帯は第53帯、中央子午線は東経135°
2. 図郭に付した短線は経緯度差1分ごとの目盛
3. 高さの基準は東京湾の平均海面
4. 等高線及び等深線の間隔は10メートル
5. 磁気偏角は西偏約7°30'
6. 図式は平成24年電子地形図25000図式